

横芝の碑

連載を終えて

—筆者・小沢春光さんに聞く—

ふるさとシリーズ第4弾として、長い間紙面を楽しませてくれた「横芝の碑」が前号で完結となりました。そこで、筆者の小沢春光さん（栗山）から、この間の苦労話などをお聞きしてみました。

◇ ◇ ◇

—昭和47年10月から足かけ13年137回の長きにわたる連載、大変ご苦労さまでした。連載を終えた現在の心境をお聞かせください。

小沢 よくここまで続いたものだと思います。情報を教えてくれたり、取材に協力してくださっ

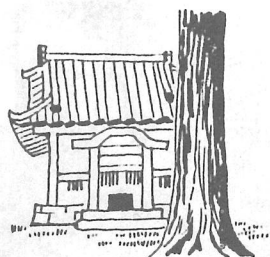


取材中の小沢さん（栗山にて）

た多くの方々に對する感謝の気持ちでいっぱいです。私を引っ張ってくれたそういう方々がいなければ、一人ではここまで続けられなかったでしょう。「牛に引かれて善光寺参り」ということばがあります。まさにこれが今の私の偽らざる心境ですね。連載を通じて小沢さんが紹介された碑は140を超えますが、これらはどのようにして見つけられたのですか。

碑は横芝の民俗史を語りかけてくるんです

小沢 初めのころは、私が歩いて取材したものを載せていたんですが、そのうち「ここにこんな碑がある」「この庚申様は広報に未掲載では」などと、皆さんからご連絡をいただくようになったんです。それを私が取材に行ってお話を伺ったり、本で調べたりして寄稿するという形がほとんどでしたね。140の碑のうち、私が自分で見つけたのは20ぐらいではないでしょうか。



—碑を調べてみようと思われたのは、どんな理由からですか。

小沢 道端に何げなく建っている碑、寺や神社の庭でふと見つけた碑——そこに刻まれた文字の一つ一つに、私たちの祖先の歴史、先人たちの暮らしが込められているんじゃないかということ、興味を持ち始めたのがきっかけですね。

町長 佐瀬哲司

味わい深い作品

—碑の一つ一つが横芝の歴史でもあるわけですね。

小沢 そういうことです。たとえ文字は刻まれていなくても、口碑としての価値はあるんです。碑はその土地の歴史——いわば民俗史が込められていて、私たちに語りかけてくるんですよ。

—取材する上で、どんな点に苦労されましたか。

小沢 せっかくなら教えてもらったのに、場所がわからなくて捜すのに苦労したこともありま

が、多くの方々のご協力、ご指導をいただけましたので、取材活動をする上で困ったということは、あまりありませんでした。それよりも、紙面のスペースの関係で、皆さんから教わったことを載せきれずに、舌足らずの表現になってしまったことが多く、その点が大変申し訳なかつたと感じています。

小沢春光さん寄稿

ふるさとシリーズ

- ◎ふるさとの話題——昭和39年4月～44年4月（36回）
- ◎ふるさとの散歩路——昭和44年5月～45年1月（9回）
- ◎十年一昔——昭和45年2月～47年9月（32回）
- ◎横芝の碑——昭和47年10月～59年6月（137回）

—これからも多くの研究を重ね

—ここ数年「ふるさとブーム」と呼ばれ、ふるさとの良さを見直す動きが活発です。執筆者の小沢さんは、いち早くこの点を指摘され、広報紙を通じて、皆さんの心に「ふるさと横芝」の味を送り届けること20年、長い歴史を刻んできた町の姿を、味わい深く紹介してくれました。

一口に20年と申しましたが、この間のご苦心・ご努力は並大抵のものではなかったと思いま

—専門的な知識は言うに及ばず、地理的な理解や表現技法など、この人ならではの感を深くしてきました。

行政広報としての性格上、紙面にはおのずと限度があり、さぞやご不満も多かったことでしょうが、作品の一つ一つに先人の心がよみがえり、心なごませてくれるものがありました。

長い間のご努力に対し、深く敬意と感謝を捧げますとともに、今後ともまた、新企画をもって大いに楽しませてくれますようお願いいたします。

